

IR report

第78期 期末決算のご報告

2012年4月1日～2013年3月31日

 **KYOKUTO**

証券コード：7226



インド仕様
ミキサートラック



インド仕様
ダンプトラック

極東開発工業株式会社

■ トップメッセージ



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて私こと、2013年6月26日をもちまして、極東開発工業株式会社の取締役社長に就任致しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

もとより微力非才の身ではございますが、今後はより一層、社業の発展のため職務に全力を尽くし、皆様のご期待に添えるよう努力致す所存でございますので、なにとぞ前任者同様、格別の御指導御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2013年6月

取締役社長

高橋和也

■ 2013年3月期の概況

当連結会計年度における我が国経済は、東日本大震災からの復興需要等があったものの、欧州や中国などの海外経済の減速を背景として景気が後退局面となる場面も見られました。

しかしながら、新政権が打ち出した経済対策等の効果から円安および株高が進行し、年度末にかけては景気回復への期待感が大きく高まりました。

このような状況下、当社グループは企業体質の強化と安定を図るべく、確実な利益確保のための諸施策の実行、ならびに積極的な海外展開の推進をはじめとした中長期的な視点からの企業価値向上に努めました。

この結果、当連結会計年度の業績は前連結会計年度に比べ、売上高は8,941百万円(13.2%)増加して76,724百万円となりました。損益面では、主力の特装車の売上高が大幅に増加した結果、営業利益は2,177百万円(73.6%)増加して5,134百万円となりました。また、経常利益は2,431百万円(76.5%)増加して5,608百万円、

当期純利益は962百万円 (43.6%) 増加して3,171百万円となりました。

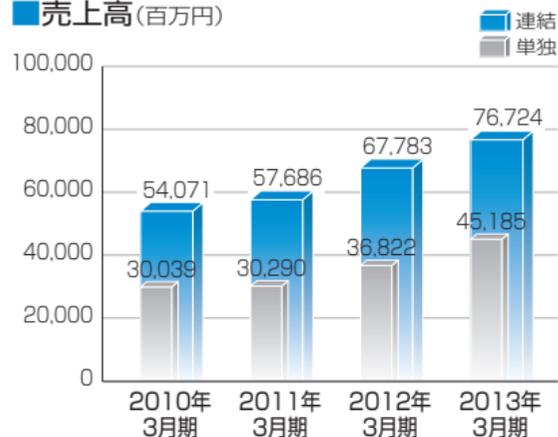
以上により、これまで取り組んでまいりました中期経営計画「Plan2010」(3ヵ年計画)の業績目標(売上高67,000百万円以上・営業利益3,000百万円以上)を達成することができました。

■今後の見通し

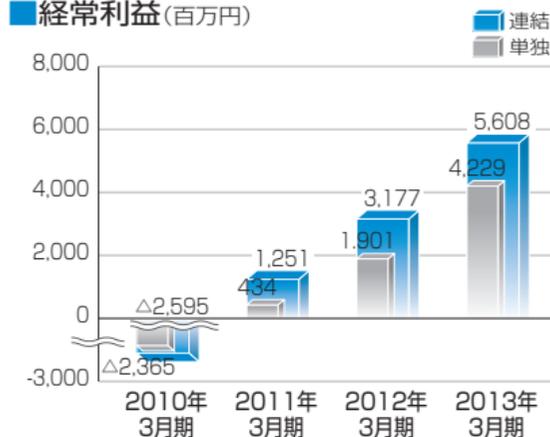
我が国経済は現政権による経済対策等のテコ入れが期待されることに加え、震災復興の動きも継続するものと見込まれ、全体としては景気回復への期待感を含みながら進んでゆくものと見込まれます。当社グループは、新たに策定いたしました中期経営計画「**Next Step 2015**」～さらなる飛躍に向けて～の着実な実行により、売上・利益の拡大および企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績ハイライト

■売上高(百万円)



■経常利益(百万円)



■当期純利益(百万円)

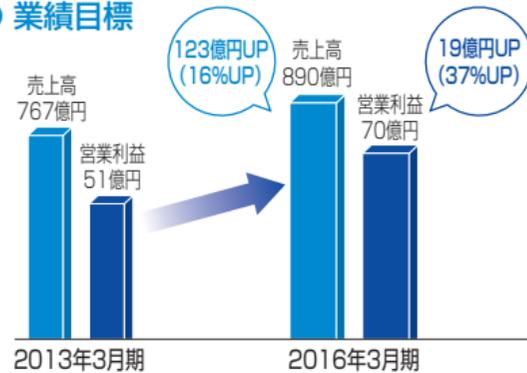


■ 新中期経営計画

「Next Step 2015」～さらなる飛躍に向けて～

極東開発グループは、本中期経営計画最終年度に創立60周年を迎えます。この3年間(2013年4月1日～2016年3月31日)を将来の飛躍のための構造改革を行う重要な期間と位置づけ、次の基本方針のもと、経営基盤の再構築と企業価値の向上に努めるとともに、あらゆるステークホルダーから信頼され、愛されるグループとして魅力ある企業文化の形成を推進していきます。

● 業績目標



● 基本方針

国内で勝ち残るための Step

国内のコア事業(特装車、環境、パーキング)について、成熟した国内市場で勝ち残るため、強固な収益体制を築き上げます。

グローバル展開への Step

海外事業を将来の収益の柱と位置づけ、グローバル展開のための基盤を強化します。

海外拠点の早期の利益貢献と、新たな市場開拓を強力に推進します。

モノづくりの総合力強化への Step

コアとなる技術の確立と人材の育成、高い品質の確保により、モノづくりの企業としての総合力を強化し、国内外での事業展開の軸とします。

ブランド価値向上への Step

製品開発・生産・販売・サービスの各分野において、多様なニーズに高い品質でお応えし、顧客満足度の向上を図るとともに、効果的なPR戦略を積極的に展開することで、国内外でのブランド価値の向上を図ります。

新たな収益源確保への Step

事業提携やM&A、新分野参入の強力な推進により、事業機会の拡大を図り、将来のコア事業を創出することで、1,000億円企業を目指します。

海外事業をさらに拡大

マレーシア企業の株式を取得

この度、海外事業の更なる拡大のため、マレーシアの TRANSCENDENT HEAVY MACHINERY SDN BHD (以下THM社)の株式を取得いたしました。

これまで当社は中国、インド、インドネシアへ進出し(*インドネシアは2013年度中の生産開始に向けて工場建設中)、各拠点での特装車の製造、販売に着手してきましたが、並行して新たにターゲットとなる国や地域も調査・検討しております。

【相手方企業の概要】

商号 TRANSCENDENT HEAVY MACHINERY SDN BHD
所在地 マレーシア・セランゴール州プジョン市
代表者 マネージング・ディレクター Law Hing Joo氏
設立 1999年
売上高 11,336千リンギット(365百万円) *2012年
資本金 900千リンギット(29百万円)

*売上高および資本金は2013年2月21日のレート(1リンギット=32.164円)にて換算

【株式取得の概要】

取得方法	既存株主の所有株式を当社が買い受け
当社出資額	943千リンギット(30百万円)
当社出資比率	15%
出資の時期	2013年2月22日
その他	当社からTHM社に非常勤取締役1名を派遣

そのような中、経済成長が進むASEANの中でも、インフラ整備等でミキサトラックの需要が見込まれるマレーシアで、以前より当社の特装車の販売・サービス代理店であるTHM社に出資することいたしました。今後、本件出資を契機として、THM社との一層の連携とパートナーシップを構築しながら、マレーシアとその周辺国(シンガポール、ブルネイなど)に当社の中国・昆山工場製ミキサトラックや、日本国内製の特装車の拡販を図ってまいります。

<調印式の様子>

左: THM社 マネージング・ディレクター
Law Hing Joo氏
右: 当社 執行役員海外推進部長
則光 健男



■ 新製品News

がれきや災害廃棄物などを迅速かつ機動的に処理！ 日本初^{※1}の「移動式破砕機」を新開発

「移動式破砕機」は、当社が1971年に発売し、現在まで全国各自治体のリサイクルプラントなどに135機におよぶ納入実績がある縦型破砕機「極東・トレマッシュ®」を、グループ会社である日本トレクス株式会社のトレーラに搭載した日本初となる製品で、災害復旧現場でのがれき処理作業や、最終処分場の掘り起こしごみ処理^{※2}現場などでの活躍が期待される車両です。

通常は施設に固定設置される破砕機をトレーラに搭載し移動を可能にした画期的な当新製品は、時間や場所に制約されることなく現場でごみの破砕を行うことが可能となるため、より迅速かつ効率的な処理作業を実現します。



- ※1. 縦型高速破砕機を搭載した移動式破砕機。(2013年2月現在 当社調べ。)
- ※2. 掘り起こしごみ処理 : 最終処分場に埋められたごみを一旦掘り起こした後、破砕・選別・焼却・再資源化などにより減量化した上で埋め戻す処理方法で、処分場の容量を確保する手段として注目されています。

——— 想定される用途 ———



災害復旧現場でのごみ処理活動



最終処分場の掘り起こしごみ処理作業

業界最短クラスのコンパクトさで取付けできる車両が幅広く! 床下格納式テールゲートリフタ 「パワーゲート® CG1000TL」

床下格納式(CG型)の大型車を対象とした機種で、テールゲートが3枚折れとなったことで、格納時のキット長を短くコンパクトにしました。

これにより取付可能車両が従来製品に比べ大幅に拡大。大型車用としては業界最短クラスとなり、リヤオーバーハング(後輪車軸の中心から車体の後端まで)が2,360mm以上の車両か

ら取付けが可能になりました。



ニーズの高い30メートル級ブーム搭載のGVW22トン車! 新型コンクリートポンプ車 「ピストンクリート® PY120-30」

GVW22トン車に30メートル級ブームと最大吐出量120m³/hのポンプユニットを搭載し、取り回し性能の良さと市場ニーズの高いブーム長のバランスを両立。また耐摩耗性能と耐圧力を兼ね備えたブーム配管や当社独自の制振装置を標準装備するなど、コンクリートポンプ車トップシェアを誇る当社ならではの、使いやすさ、耐久性を追求した、コストパフォーマンスの高いモデルです。



■ 新規事業のご紹介

再生可能エネルギーの普及を促進 敷地を有効活用 メガソーラー発電事業に参入

国内では低炭素社会の実現に向けて太陽光発電事業が活発化していくと予想されます。当社グループも長年に亘り、環境事業等を通じて循環型社会の形成に貢献すべく取り組みを行っていることから、敷地の一部を活用することで再生可能エネルギーの普及を促進すべく、当事業への参入を決定いたしました。

飯塚市では3月に発電を開始

第一弾として2013年3月、福岡県飯塚市の当社福岡工場敷地内で建設工事を進めていたメガソーラー発電所が竣工。発電した電力は全量を九州電力株式会社へ売却いたします。当施設は、初年度の年間予想発電量



◀ 太陽光パネル



▲ 福岡工場全景
(※ 橙線内がメガソーラー発電施設)



パワーコンディショナー・受変電設備▶

が、一般家庭の年間電力消費量の約520世帯分に相当する約186.7万kWhのメガソーラー発電所で、太陽光発電によるCO₂排出量削減効果は約623.5t(初年度)となります。

八戸市の発電所は7月完成予定

また、第二弾として青森県八戸市の当社旧東北工場敷地内にも2013年7月を目処に年間予想発電量(初年度)が約181.7万kWhのメガソーラー発電施設を設置いたします。

極東開発グループではこの度のメガソーラー発電事業を通じて、クリーンエネルギー導入の積極的な推進、および更なる循環型社会の形成に貢献してまいります。



◀青森県八戸市に建設中の施設

福岡工場メガソーラー発電所 施設概要

所在地	福岡県飯塚市大字伊岐須428(当社福岡工場内)
敷地面積	約6万6,832㎡(約6.7ha)
施設面積	約2万3,329㎡(約2.3ha)
連系出力規模	1,500kW(1.5MW) *パワーコンディショナーまでの出力規模で算出
太陽電池モジュール	ソーラーフロンティア(株)製CIS太陽電池モジュール×10,460枚
パワーコンディショナー	TMEIC(東芝三菱電機産業システム(株))製パワーコンディショナー三相3線式 定格容量500kW×3台

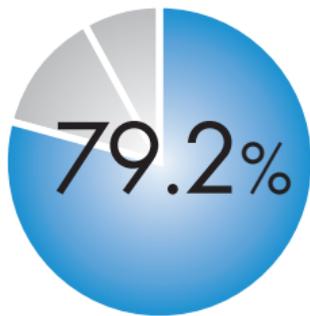
八戸メガソーラー発電所 施設概要

所在地	青森県八戸市北インター工業団地5丁目2番26号
敷地面積	約5万7,601㎡(約5.8ha)
施設面積	約3万2,647㎡(約3.3ha)
連系出力規模	1,500kW(1.5MW) *パワーコンディショナーまでの出力規模で算出
太陽電池モジュール	ソーラーフロンティア(株)製CIS太陽電池モジュール×10,000枚
パワーコンディショナー	TMEIC(東芝三菱電機産業システム(株))製パワーコンディショナー三相3線式 定格容量500kW×3台

■ セグメント別概況

◆ 特装車事業

売上構成比



2トン プレスパック®



パワーゲート®GII 1000

国内受注の着実な確保を図るとともに、大型ダンプトラックの名古屋工場での生産再開など、需要の増加に対応するための生産力の強化を積極的に推進しました。さらに、当社独自の高付加価値製品である電動式塵芥収集車「eパッカー®」や、国内最高クラスの性能を誇る高圧大容量コンクリートポンプ車「ピストンクリート® PY135-26-H」等の新製品の受注活動も積極的に推進しました。

これらの結果、特装車事業の売上高は61,272百万円で7,240百万円

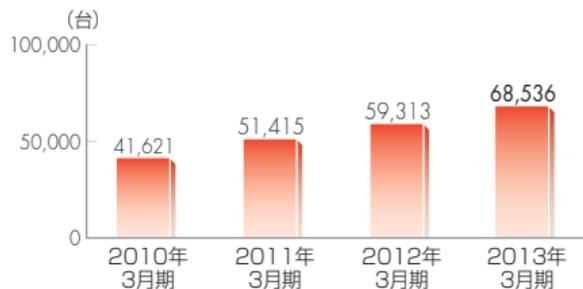
(13.4%) 増加しました。また、営業利益は3,367百万円で1,969百万円(140.9%) 増加しました。

海外につきましても、2012年10月よりインド工場 (MITHRA KYOKUTO SPECIAL PURPOSE VEHICLE CO., PVT. LTD.: アンドラ・プラデシュ州 ビジャワダ) で、現地向けミキサートラックとダンプトラックの生産をスタートさせました。インドネシアでは、ダンプトラック等の製造・販売の合併会社2社を設立し、2013年度中の稼働に向けた準備を進めました。また、マレーシアの販売代理店であるTRANSCENDENT HEAVY MACHINERY SDN BHDに出資を行い、アセアン諸国における販売体制を強化するなど、海外展開の推進を継続的に図りました。



中型ダンプトラック

国内普通トラック登録台数の推移



2トン フックローラ[®]

■ セグメント別概況

◆ 環境事業

売上構成比



リサイクルプラザ (八尾市)



極東・トレマッシュ® 破碎機

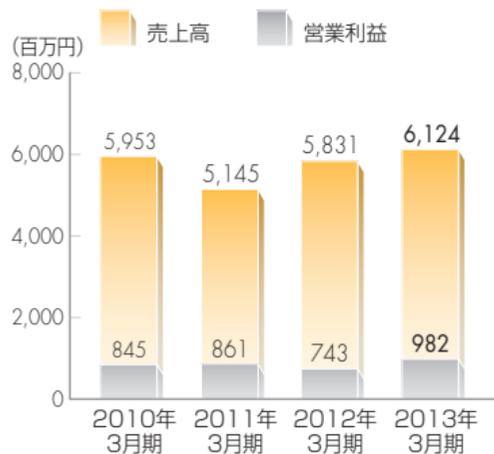
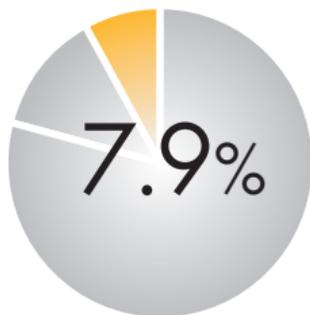
国内では引き続きメンテナンス・運転受託への注力による利益確保と、新規プラントの受注活動および受注済物件の建設を進めました。また、海外ではごみ処理用縦型高速破碎機の中国における第1号機を設置し稼動させました。

これらの結果、売上高は9,953百万円で1,478百万円(17.4%)増加しました。また、営業利益は1,242百万円で54百万円(4.6%)増加しました。

なお、災害廃棄物処理などに活用できる新製品として、ごみ処理用縦型高速破碎機をトレーラに搭載した「移動式破碎機」を連結子会社の日本トレクス株式会社と共同開発しました。今後、正式発売に向けテスト等を進めてまいります。

◆ 不動産賃貸等事業

売上構成比



コインパーキングは、コストダウンと事業地選別の効果により利益が増加しました。立体駐車装置は低調な市場環境が継続しましたが、リニューアルおよびメンテナンス事業への注力を継続し、売上および利益を確保しました。

また、新規事業として、福岡工場（飯塚市）内の敷地を活用したメガソーラー発電所が完成し、3月より売電をスタートしました。今後は、第二弾として7月の稼働を目標に旧東北工場（八戸市）への発電所の建設を進めてまいります。

これらの結果、売上高は6,124百万円で293百万円（5.0%）増加しました。また、営業利益は982百万円で238百万円（32.1%）増加しました。



コインパーキング (P.ZONE®)



立体駐車装置 (地下パーク 3N)

■ 連結財務諸表

連結貸借対照表

科 目	当 期	前 期
	2013年3月31日現在	2012年3月31日現在
資産の部		
流動資産	51,120	49,483
固定資産	46,774	44,387
有形固定資産	35,673	35,349
無形固定資産	389	360
投資その他の資産	10,710	8,678
資産合計	97,894	93,871

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2013年3月31日現在	2012年3月31日現在
負債の部		
流動負債	28,315	27,276
固定負債	10,728	11,474
負債合計	39,044	38,751
純資産の部		
株主資本	57,272	54,618
資本金	11,899	11,899
資本剰余金	11,718	11,718
利益剰余金	35,799	33,144
自己株式	△ 2,145	△ 2,145
その他の包括利益累計額	1,578	501
その他有価証券評価差額金	1,706	719
為替換算調整勘定	△ 127	△ 218
純資産合計	58,850	55,119
負債純資産合計	97,894	93,871

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2012年4月1日から 2013年3月31日まで	2011年4月1日から 2012年3月31日まで
売上高	76,724	67,783
売上原価	60,751	54,646
売上総利益	15,972	13,137
販売費及び一般管理費	10,838	10,180
営業利益	5,134	2,957
営業外収益	782	570
営業外費用	307	349
経常利益	5,608	3,177
特別利益	5	17
特別損失	289	227
税金等調整前当期純利益	5,325	2,967
法人税等合計	2,154	758
少数株主損益調整前当期純利益	3,171	2,208
当期純利益	3,171	2,208

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2012年4月1日から 2013年3月31日まで	2011年4月1日から 2012年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,879	1,202
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,367	△ 2,278
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,245	△ 1,806
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	△ 1
現金及び現金同等物の増減額	△ 3,709	△ 2,883
現金及び現金同等物の期首残高	10,175	13,058
現金及び現金同等物の期末残高	6,466	10,175

■ 連結財務諸表

連結株主資本等変動計算書 (2012年4月1日から2013年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計	
当連結会計年度期首残高	11,899	11,718	33,144	△ 2,145	54,618	719	△ 218	501	55,119
当連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 516		△ 516			—	△ 516
当期純利益			3,171		3,171			—	3,171
自己株式の取得				△ 0	△ 0			—	△ 0
自己株式の処分			△ 0	0	0			—	0
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の変動額(純額)					—	986	90	1,076	1,076
当連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,654	△ 0	2,654	986	90	1,076	3,731
当連結会計年度期末残高	11,899	11,718	35,799	△ 2,145	57,272	1,706	△ 127	1,578	58,850

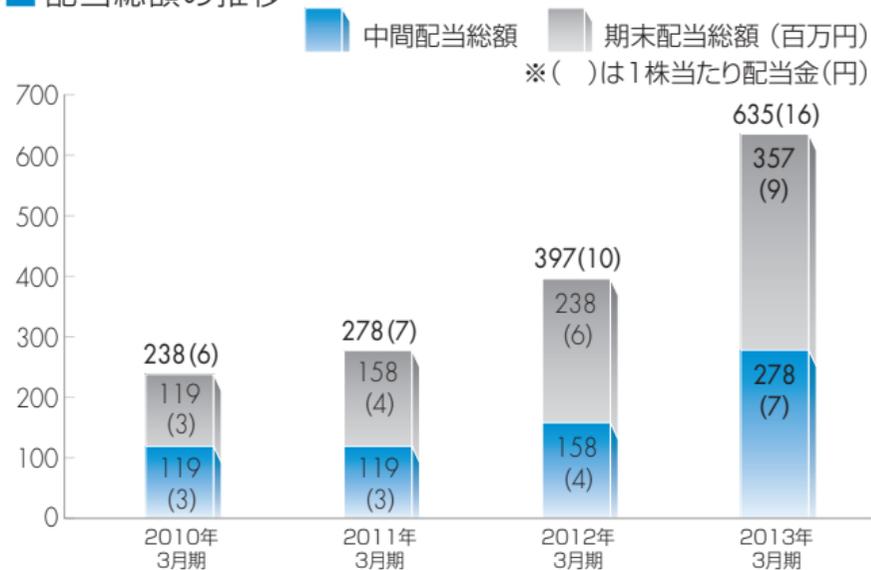
■ 利益還元について

当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化をはかりながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めております。

配当について

2013年3月期の期末配当金につきましては、前期末配当金より1株当たり3円増配の9円とさせていただきます。これにより、中間配当金を含めました年間配当金は、前年実績の10円と比較して6円増配の16円となります。

■ 配当総額の推移



会社概要

■ 商 号	極東開発工業株式会社 KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO., LTD.
■ 設 立	1955年6月1日
■ 資 本 金	11,899,867,400円
■ 従 業 員 数	連結 2,206名 単独 840名

役 員 (2013年6月26日現在)

代表取締役会長 最高経営責任者	筆 谷 高 明
代表取締役社長 最高執行責任者	高 橋 和 也
取 締 役 執 行 役 員	杉 本 治 己
取 締 役 執 行 役 員	林 篤 昌
取 締 役 執 行 役 員	米 田 卓

取 締 役 執 行 役 員	近 藤 治 弘
取 締 役 執 行 役 員	酒 井 郁 也
常 務 執 行 役 員	西 川 柳 一 郎
執 行 役 員	中 西 利 寿
執 行 役 員	則 光 健 男
執 行 役 員	堀 本 昇
執 行 役 員	加 藤 定 宣
執 行 役 員	櫻 井 晃
執 行 役 員	越 智 聡 一 郎
執 行 役 員	布 原 達 也
常 勤 監 査 役	高 島 義 典
監 査 役	植 山 友 幾
社 外 監 査 役	道 上 明
社 外 監 査 役	楠 守 雄

株式の状況

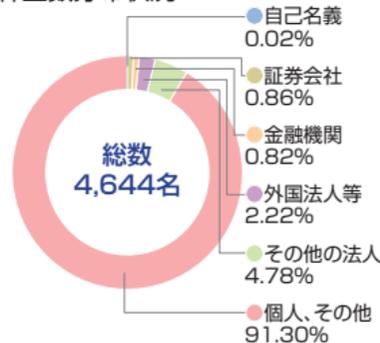
- 発行可能株式総数 170,950,672 株
- 発行済株式総数 42,737,668 株
- 株主数 4,644 名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,733	6.39
株式会社三井住友銀行	1,600	3.74
日本スタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託みなと銀行口)	1,498	3.50
極東開発共栄会	1,315	3.07
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,187	2.77
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,012	2.36
極東開発従業員持株会	895	2.09
宮原 幾男	882	2.06
シービーエヌワイティエフインターナショナルキャップバリュポートフォリオ	849	1.98
日本スタートラスト信託銀行株式会社(トヨタ自動車口)	837	1.95

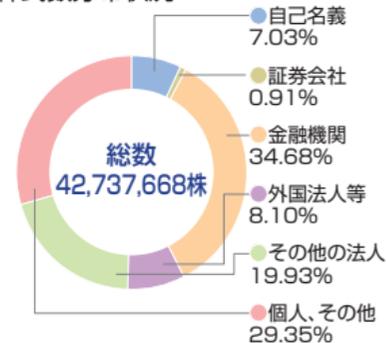
(注) 当社は自己株式を 3,006 千株 (7.03%) 保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

株式分布状況

株主数分布状況



株式数分布状況



株価・売買高の推移



株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末 3月31日

中間 9月30日

公告方法 電子公告

当社ホームページにて掲載

(<http://www.kyokuto.com/>)

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502

大阪市中心区伏見町三丁目6番3号

TEL 0120-094-777(通話料無料)

上 場 取 引 所 東京証券取引所市場第一部

大阪証券取引所市場第一部

<ご注意>

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 4.大阪証券取引所は、2013年7月16日付をもって東京証券取引所と市場の統合を行う予定のため、同日以降当社の上場証券取引所は東京証券取引所になります。

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 経営企画部

TEL:0798-66-1500

URL:<http://www.kyokuto.com/>

MAIL:kkkikaku@kyokuto.com